

交差点 95号

発行：札幌市交通安全運動推進委員会
令和2年11月

夕暮れの一番星は 反射材

内閣総理大臣賞(最優秀作)

交差点 命のきけんが かくれんぼ

文部科学大臣賞(優秀作)

「令和2年使用交通安全年間スローガン」(全日本交通安全協会・毎日新聞社)より



冬の交通安全について保護者の皆さまへ

もうすぐ、冬休みがやってきます。

子どもたちには寒い冬でも元気に楽しく過ごしてもらいたいところですが、冬は降雪や路面凍結などにより、交通事故の危険がいっそう高まる季節です。日没が早かったり、雪山のかげに隠れた子どもたちが見えづらかったりなど、事故が懸念されるさまざまなポイントがあると言えるでしょう。

令和元年12月～令和2年2月の冬期3か月間、市内において交通事故によりケガをした中学生以下の子どもは26人で、前年同期比-24人と約半数ほどに減少しました。しかしながら、令和2年11月15日現在、本年の市内交通事故死亡者は25人で前年と比べ同じ数字となっており、悲惨な交通事故がなかなか減少しない状況であると言えます。

子どもたちが交通事故に遭うことなく元気で明るい新年と新学期を迎えられるよう、この機会にぜひご家族で交通安全について話し合い、子どもたちにとって有意義な冬休みとなるようにしましょう。

中学生以下の子どもの交通事故発生状況（令和元年12月～令和2年2月）

交通事故傷者数：26人（前年比-24人）
うち車両同乗中の傷者数：16人（前年比-10人）

図1 中学生以下の子どもの状態別・月別傷者数
(平成31年4月～令和2年3月)

(単位：人)

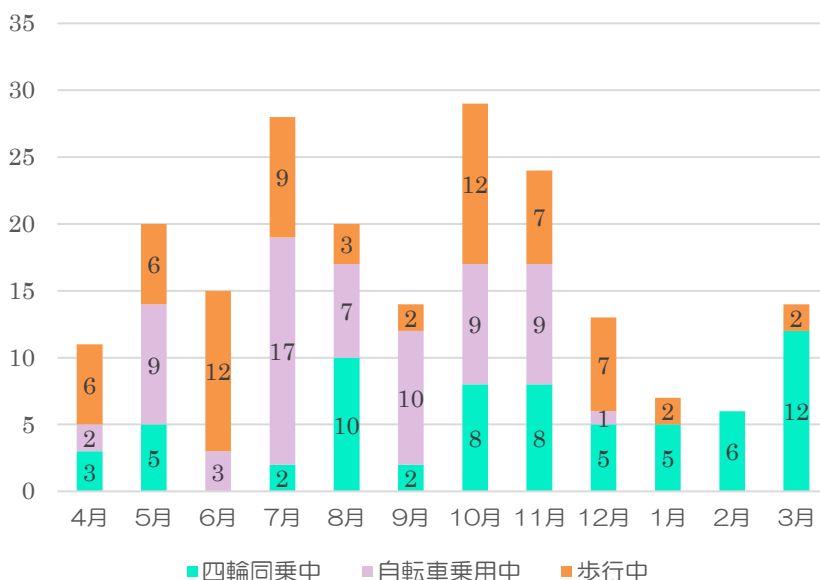


図1のとおり、平成31年4月からの1年間では、冬～春にかけて全体で見ると傷者数が少なくなっておりますが、四輪同乗中の傷者の割合が大きくなっています。

車を運転するのは大人です。冬期間は道路凍結による事故の危険があるため、特にスピードダウンや早めのブレーキなどの安全運転を心がけましょう。

また、大人も子どもも必ずシートベルト（またはチャイルドシート）の着用を徹底し、大切な命と身体を守りましょう。

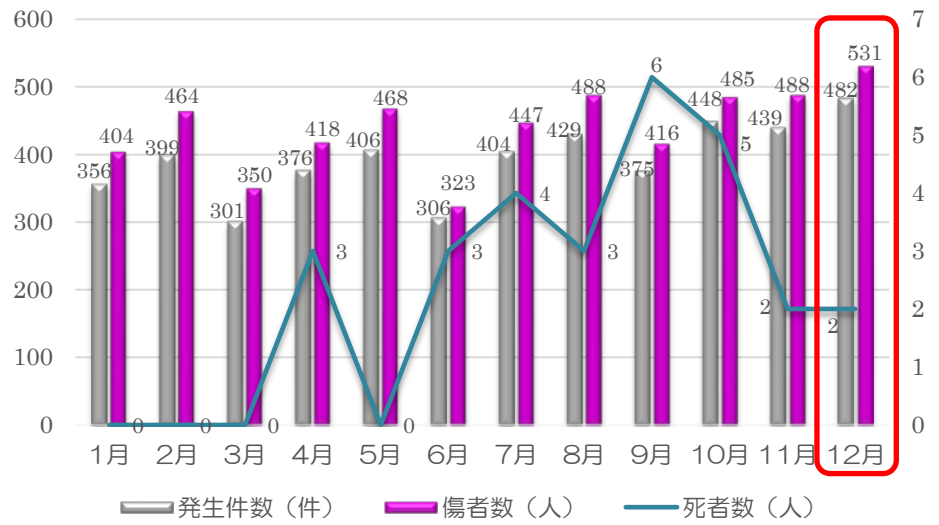


12月 は交通事故に特に注意しましょう！

昨年1年間の市内の交通事故発生状況を月別で見ると(図2)、12月は発生件数・傷者数が最も多くなっており、また、この点に関しては、一昨年(H30年)も同様の結果となっていました。

札幌市では、12月頃から本格的に雪が積もるなど気候や路面状況が大きく変わりますので、子どもたちには冬の気候の特性に合わせた交通安全指導を行うようにしましょう。

図2 市内交通事故月別発生状況
(平成31年1月～令和元年12月)



冬の交通安全指導のポイント



●自転車には乗らない

冬道は滑りやすく、自転車の利用は大変危険です。冬期間は自転車を利用しないように指導しましょう。

●道路わきの雪山に登らない

誤って道路に滑り落ちる危険があります。また、雪山のかけからの飛び出しにも注意しましょう。

●時間に余裕をもって行動する

車は急に止まることができません。左右をよく見て、焦らず横断させましょう。また、冬道では転倒の可能性が高くなりますので、走らないよう指導しましょう。

●夜光反射材や、目立つ色の服を着用

冬期間は暗くなるのが早いので、ドライバーから子どもを見つけやすくするため夜光反射材を身に付けさせましょう。明るい色の服装で、雪の中でも目立つようにさせましょう。

●建物からの落雪に注意

落ちてきた雪や氷による事故を防ぐため、軒下では遊ばせないようにしましょう。



～危険なポイントは、大人が普段からチェックしておきましょう～



交通安全の
4つの約束



- 道路をわたるまえにとまる
- 車がこないかみる
- 車の音をきく
- 車が通りすぎるまでまつ

